



ちくさ咲く みち



「話をよく聞く親」の子どもは学力が高い

校長 花生 典幸

今年度締めくくりの3月が、いよいよ目前にせまってきました。月日が過ぎるのは、本当に早いものだと感じます。

さて、上の表題を見てドキッとされた方もいるかもしれません。今回のテーマは、「子どもの話を聞く」ということについてです。

子どもは、毎日いろいろな話（中にはとりとめのない話もあります）をよくしたりります。学校で、今日先生や友だちとどんな話をしたか、だれと何をして遊んだか、給食の味はどうだったか……子どもは、話をした際、相手から無条件に聞いてもらえると、安心感や落ち着き、自信や喜びを感じるのだそうです。大人が話を聞いてあげることで、子どもは「話すことが楽しい」「話すと心が軽くなる」と感じ、もっと話したいと思うようになるそうです。そこから豊かな表現力や語彙力も育まれていく。

東北大学の川島隆太教授は、自身の研究調査を通し、**「家の人にしっかり話を聞いてもらえている」と答えた子は、学力が上がる傾向が見られる**と述べられています。子どもの話をきちんと聞いてあげるかどうかは、学力にも影響するということですね。

子どもの話を聞いてあげる際のポイントは、4つあるそうです。

① 共感する

子どもが話をしているときは、子どもの立場になって共感しながら聞いてあげるとよい。「疲れた」と言ってきたら、「疲れたね」と子どもの言葉をくり返したり、「そうなんだね」と相づちを打ったり、うなずいたりしながら聞くと効果的。



② 否定しない

たとえ子どもの話がまちがった内容であったとしても、「でも」、「だけど」と否定せずに、肯定的に話を聞きます。子どもがまちがったやり方で何かをしてしまった場合でも、まずは共感してあげ、それから意見やアドバイスを伝えると、子どもは素直に話を受け入れやすくなります。

③ 話の内容をよく確認する

子どもの話でわからないところがあったとき、そのまま聞き流してしまうと、子どもは「話を真剣に聞いてくれない」と感じてしまいます。わからないときは、くわしい内容を確認するとベター。



④ 子どもの顔を見て話を聞く

子どもが話しかけてきたときは、背中を向けたまま聞くようなことはせず、向き直って、子どもの顔を見ながら話を聞きます。子どもは親を手本にして育つと言われます。毎日の生活での親の姿こそが、子どもに最も影響力をもつ、真実です。

ポイントを4つ挙げましたが、一番大事なことは、**子どもの話を聞いてあげられる心身の〈余裕〉をもつ**ことでしょう。

家庭でも学校でも、忙しい中、なかなか余裕をつくりだすのが難しくなっているのが現状ですが、わたしたち大人（親・先生）もお互いに意識しながら、一緒に努力していきましょう。子どもたちの成長を信じて。